

(社) 日本原子力学会 標準委員会
第 34 回 原子燃料サイクル専門部会 (FTC) 議事録 (案)

1. 日時 2008 年 9 月 16 日 (火) 13:30~16:00
2. 場所 原子力安全基盤機構 本館 4B 会議室
3. 出席者 (順不同、敬称略)
(出席委員) 駒田 (副部会長)、加藤 (和) (幹事)、阿部 (昌)、荒木、有江、猪俣、金木、
加藤 (正)、川上、白井、仲神、新堀、深澤、堀川、前川 (15 名)
(代理出席委員) 中田 (坂下代理)、大塚 (高橋代理)、近藤 (濱田代理)、山本 (森山代理)
(4 名)
(欠席委員) 田中 (部会長)、小佐古、有富、井口、内山、長崎、中島、松尾 (8 名)
(欠席常時参加者) 菊池、池澤、宮川 (3 名)
(事務局) 岡村、谷井
4. 配付資料
FTC34-1 第 33 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)
FTC34-2 人事について (専門部会)
FTC34-3 人事について (分科会)
FTC34-4 標準委員会の活動状況
FTC34-5-1 【専門部会 中間報告】「低レベル放射性廃棄物の埋設後管理方法 (仮称) [ピット処分]」について
FTC34-5-2 【専門部会 中間報告】「低レベル放射性廃棄物の埋設後管理方法 (仮称) [ピット処分]」標準案 (本体・解説対比記載版)
FTC34-6-1 「低レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準」案 標準委員会書
面投票時コメント対応表
FTC34-6-2 「低レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：200*」(案)
FTC34-7-1 「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物・低レベル放射性廃棄
物輸送容器定期点検基準」案 標準委員会書面投票時コメント対応表
FTC34-7-2 「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物・低レベル放射性廃棄
物輸送容器定期点検基準：200*」(案)
FTC34-8 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況
FTC34-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員任期一覧
FTC34-参考 2 標準委員会及び専門部会の今後のスケジュール(案)

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

27名の委員のうち、代理委員を含め19名の出席があり、成立に必要な委員数（18名）を満足している旨が事務局より報告された。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録（FTC34-1）が承認された。

(3) 人事について

a. 専門部会人事（新任委員の専任及び委員継続の承認）

事務局より、FTC34-2に沿って、濱田委員の退任が報告され、その後任として田中部会長より近藤 敏和氏（国土交通省）が推薦されている旨紹介された。決議の結果、全会一致で選任された。また、引き続き任期満了の委員（荒木委員）から委員継続の意志が示された旨説明し、決議の結果、全会一致で引き続き委員として選任された。

b. 分科会人事（新委員の承認）

事務局より、FTC34-3に沿って、LLW 廃棄体等製作・管理分科会で、古谷氏、山田氏、中山氏、脇氏、関口氏、LLW 放射能評価分科会で、傳田氏、脇氏、古谷氏、関口氏、LLW 埋設後管理分科会で、西垣氏、平井氏、LLW 埋設施設検査方法分科会で、片岡氏、加藤氏の退任が報告され、その後任として、LLW 廃棄体等製作・管理分科会で、中山氏、中瀬氏、水越氏、片岡氏、小倉氏、LLW 放射能評価分科会で、石川氏、明里氏、中山氏、市毛氏、LLW 埋設後管理分科会で、岩崎氏、LLW 埋設施設検査方法分科会で、山田氏、金子氏が新委員として選任された旨説明し、全会一致で承認された。

(4) 標準委員会の活動状況について

事務局より、FTC34-4に沿って、標準委員会の活動状況について、標準委員会で行われた書面投票の結果等の説明が行われた。

(5) 【専門部会 中間報告】「低レベル放射性廃棄物の埋設後管理方法（仮称）[ピット処分]」に関する審議

LLW 埋設後管理分科会吉原幹事より、FTC34-5-1、2に基づき、経緯及び標準原案の概要について説明が行われた。審議の結果、次回の標準委員会に中間報告することが承認された。また、提出された標準原案についてのコメント等があれば、10月10日（金）までに事務局に連絡することが決められた。

主な質疑等：

- ・ 本標準は分冊になるのか。

- 本文の前書きに記載しているように、トレンチ処分(L3)、ピット処分(L2)、余裕深度処分(L1)の各処分方式毎に1冊ずつ発行し、計3分冊の標準で構成する予定である。
- ただし、L2、L3は同時に発行する予定であるが、L1はL2、L3とは時期がずれる可能性がある。
- なるべく1冊にまとめていただきたい。
- 検討したい。
- 適用範囲に書かれているが、再処理施設及びMOX燃料加工施設の運転等に伴って発生する低レベル放射性廃棄物も適用範囲に含まれるのか。
 - 今のところそう考えている。
- 段階管理の定義を明確にして欲しい。
 - 附属書E(p.28)に記載しているとおり、第1段階は人工バリアの健全性を維持して放射性物質を出さない段階。第2段階は、人工バリアからの放出は考えるが、天然バリアも含めて移行抑制機能により安全を確保する段階。第3段階は放射能が減衰し、居住等の特定行為を禁止すれば安全性が保たれる段階。
- 埋設後とはどの時点からか？
 - 廃棄物を定置した後とし、覆土し始めた時点がその開始時点と考えている。
- L1, L3ではどうなのか。
 - L3はほぼ同じだが、L1は坑道の埋め戻しとなるため、はっきりしていない。
- 埋設後は第3段階からではないか。
 - 覆土の施工も管理の対象としており、結果的に、第1段階の途中から埋設後管理の対象になっている。
- 埋設後管理と施設検査など他の標準との関係をどこかに記載してはどうか。
 - 何らかの対応をして読者を混乱させないようにしたい。本文の1章～3章まではトレンチ処分、ピット処分、余裕深度処分について共通の内容を記載することを目指し、4章以降はそれぞれ固有の内容を記載しようとした。
- 4章以降についても共通な部分があるはず。共通なものそうでないものとのわけ、わかりやすいようにしてはどうか。また、段階移行の要件、特にピット処分では第2段階から第3段階への移行で、移行抑制機能がどうだったら良いのか良く議論してはっきり定義して欲しい。
 - 以上の指摘を踏まえ、読み手を混乱させないように表現したい。
- 5. 覆土の施工で移行抑制として線量評価上の条件を満足することと書かれているが、物性と線量評価との関係はどこに記載されているのか。
 - 附属書集 p.43 の④に簡単に記載している。
 - 覆土厚さは地下水流動に係る要件ではなく、遮へい評価上での要件である。
 - 移行抑制から展開しているのが誤解を招くのではないか。
 - 覆土は、移行抑制に関しては上部からの水の侵入防止といった機能を持つ。書き方

を工夫されてはどうか。

(6) 「低レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：200*」案 標準委員会書面投票時コメント対応に関する審議

輸送容器分科会川上委員より、FTC34-6-1、2に沿って、標準委員会書面投票時に提出されたコメントへの回答並びに標準の修正内容について説明が行われた。審議の結果、修正内容は編集上の修正であること、コメント回答も含めて妥当な内容であり、次回標準委員会へ報告することが決議された。

主な質疑等：

- ・アイソトープ手帳のデータと核種データライブラリのデータを両方使用しているが、問題は無いのか。いずれかに統一してはどうか。

→ アイソトープ手帳は入力値、核種データライブラリは断面積等の計算と使い分けられている。

(7) 「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物・低レベル放射性廃棄物輸送容器定期点検基準：200*」案 標準委員会書面投票時コメント対応に関する審議

輸送容器分科会広瀬委員より、FTC34-7-1、2に沿って、標準委員会書面投票時に提出されたコメントへの回答並びに標準の修正内容について説明が行われた。審議の結果、修正内容は編集上の修正であること、コメント回答も含めて妥当な内容であり、次回標準委員会へ本報告することが決議された。

(8) 分科会の活動概況について (FTC34-8)

事務局より、前回専門部会以降に行われた各分科会の活動状況について報告が行われた。

6. 今後の予定

次回専門部会は、次々回の標準委員会の日程を確認してから部会長と別途調整することとした。

以 上